

## オーディオ実験室収載

### DSD 再生のチャレンジ(2) —352.8KHzDXD から 512sDSD への変換—

#### 1. 始めに

既に超ハイレゾ音源の音質評価のシリーズでいくつか事例を報告してきましたが、さらに、352.8KHzDXD から 512sDSD への変換を PC の交換を機会に事例を増やして動作の確認をいたしました。

#### 2. PC の変更機種による 352.8KHz から 512sDSD リアルタイム変換再生

試聴ルートは下記のとおりとします。再生ソフトは HQPlayer Desktop 3 ASIO を使用しています。

PC → micro iDSD → DA-3000 (44.1KHz) → MYTEK DIGITAL 192-DSD  
(DA-3000 よりクロック供給)

ここで、DA-3000 には ABS-7777 から 44.1 KHz のクロックを供給します。PC と micro iDSD には USB リベルメンテ 1.3m で接続しています。

音源は外付け HDD に収納しており、USB リベルメンテ 1.3m で接続しています。

#### Buffalo 製 HD-LSU2D → PC

前報(1)における機種変更により、HQPlayer と micro iDSD のドライバーをインストールし、音切れ、ブツブツノイズなしに 352.8KHzDXD → 512sDSD リアルタイム変換再生が実現できました。但し、HQPlayer Desktop 3 ASIO の SDM 設定のオーバーサンプリングの設定を minringFIR にすることが必要です。例えば、polysync のままですると音切れが発生します。しかしながら、PC の動作を観察していますと処理能力に限度近い様子が見えますので、そのような場合は 256sDSD まで落とすのが安全と思われます。

この 352.8KHz → 512sDSD リアルタイム変換再生に対し、オーディオ仲間の B 氏に依頼して、同じ曲を 512sDSD に予め変換してもらったものの Native 再生との比較は別途まとめて報告いたします。

#### 3. まとめ

352.8KHzDXD から 512sDSD へのリアルタイム変換再生が安定的に実施できることを確認しました。これにより、比較的入手しやすい 352.8KHzDXD があれば簡便に 512sDSD へのリアルタイム変換再生を楽しむことができます。なお、到達できた音質の水準は多分に 2 本の USB リベルメンテの効果も含まれていると思われます。

以上

【付記】

上記内容を A 氏にお伝えしたところ早速確認に来られ、いろいろな音楽ジャンルについてご満足いただけました。また、ほぼ同能力を持つ A 氏ご持参の PC でもトレースしてみましたが、352.8KHzDXD → 512sDSD リアルタイム変換再生では音切れが残りましたが、352.8KHzDXD → 256sDSD リアルタイム変換再生では安定していました。A 氏の PC には多くのソフトがインストールされていますのでこれらの整理をしてみようということになりました。